

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 596 事業名 防災学習センター運営管理事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計		一般会計
	款		消防費
	項		消防費
	目		消防費
	大事業		消防事業
事項			防災学習センター運営管理事業

分野別目標	1	安心して、安全に暮らせるまち
政策	2	消防・救急救助体制の充実
施策	1	予防体制の充実
取組	2	防火防災意識の高揚と自主防火活動の推進

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	H17	～
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	予防課	垣鼻 正純 (427-0119)
関連課		

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず	○
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実			
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実			
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実			
その他		その他		その他			

1 事業概要及び実施内容

事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）		事業内容				
事業概要	防災学習センターに来館する市民に対して体験学習等を通じて防火・防災啓発を図る事業	防災学習センターの運営に関する事業は、同センターに来館する市民に対して体験学習を通じて、防火防災の啓発を図る案内業務と展示機器の保守及び維持業務に区分され、案内業務は民間委託しており、個人から地域へと防災対応能力の向上を図るために、各コーナーで「見て 聞いて 体験して 学習しよう!」をテーマに、とっさの時の対応力を見つけていただきます。展示機器の保守及び維持管理業務は、職員が展示機器の保守点検や故障、修理時の業者との契約などを行っています。				
	実施内容	平成21年度 防災学習センターによる体験学習 地震体験車体験運用 防火・防災等出前講座 イベント開催	平成22年度 防災学習センターによる体験学習 地震体験車体験運用 防火・防災等出前講座 イベント開催	平成23年度 防災学習センターによる体験学習 地震体験車体験運用 防火・防災等出前講座 イベント開催	平成24年度	平成25年度

2 事業コスト

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	4,240	4,240	18,849	18,786	16,121	17,027	16,411		16,411	
伸び率 (%)	-	-	344.6%		-14.5%		1.8%		0.0%	
人件費	常勤職員	5,430	3,479	1,167	1,072	1,072	1,103	1,058		1,058
	非常勤職員	12,391	9,564	9,108	0	0	0	0		0
小計	17,821	13,043	10,275	1,072	1,072	1,103	1,058		1,058	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源 (税等)	4,240	4,240	18,849	18,786	16,121	17,027	16,411		16,121	
所要人数	常勤職員	0.71	0.45	0.15	0.14	0.14	0.15	0.14		0.14
	非常勤職員	4.5	4.66	0.36						

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
活動指標	防災学習センター利用者の促進(単年度の入館者数)	年度目標値				13,000	13,000	13,000	13,000	13,000
		実績値				11,923	11,414	11,579		
	単位	人	全体目標値	13,000	全体目標達成度	89.0%	年度別達成度	91.7%	87.8%	89.1%
	地震体験車利用人数	年度目標値				12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
実績値					8,086	7,753	10,592			
単位	人	全体目標値	12,000	全体目標達成度	88.3%	年度別達成度	67.4%	64.6%	88.3%	
成果指標	防災学習センター入館者数 (平成17年4月オープン後からの累計)	年度目標値				60000	73000	86000	99000	112000
		実績値				64517	75931	87510		
	単位	人	全体目標値	112000	全体目標達成度	78.0%	年度別達成度	107.5%	104.0%	101.8%
	年度目標値									
単位	人	全体目標値	90000	全体目標達成度	58.3%	年度別達成度				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) B 1
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	外部委託が軌道に乗り、東日本大震災後、個人の来館者や出前講座の依頼も増加し、市民の関心の高さが伺えるが、防災学習センターの入館者の更なる増加の方策が必要である。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	東日本大震災で大きな被害を出した津波に対する怖さや避難の心得等を目や身体で体感できる映像の導入を検討しなければならない。 また、東海・東南海・南海地震による津波襲来高さの変更されたとき、現在の津波ハザード及び災害体感シアターに和歌山市における最高の高さが表示されるため体感ソフトの変更について考えなければならない。